

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

各地区を懇談会で回らせていただき、参加者数は正直少なかったが、多様な意見が出た。事務局の報告を受け、学校数も大切だが、河北町にとって将来どのような学校が一番望ましいのか、地区が発展するためにはどのような学校がいいのか、子どもたちが行きたい学校とはどのような学校か、保護者にとって行かせたい学校とはどのような学校か、地域と町とがどのような関わりをもつべきか、よりグローバルな視点からご意見をいただきまとめていきたい。そこからおのずと学校数が出てくると思う。忌憚のない意見をお願いしたい。

4 報告・説明（教育主幹）

- (1) 各地区懇談会概要報告（資料スライド2～8）
- (2) 今求められている学力について（スライド9～14）
- (3) 文部科学省における「適正規模・適正配置」の考え方について

5 協議（座長：委員長）

先ほど、河北町にとって望ましい学校とはどのような学校かとお聞きしたが、皆様の様々な立場から、子どもたちにはどんな学校がいいのか、先生方が教育しやすい学校とはどんな学校かご意見をいただきたい。

(1) 河北町立小学校の適正規模・適正配置について

- ・ P18 学校規模の適正化が示されると1学年2～3クラスとなってしまふ。地区の座談会でそのことが先に説明されれば、果たしてそのような結果になったのかと危惧している。地区座談会では現状維持が望ましいという雰囲気が強かった。

(委員長) アンケート結果の中では示した。今ご指摘いただいたのは、それを出してしまうと規模ありきということになりかねないという懸念だと思ふ。

- ・ 河北町は地域性が非常に強い町なので、適正規模・適正配置は非常に難しく、考えがまだ出ない。説明されたことが必ずしも河北町にリンクする内容ではないのではないのか。地区懇談会の参加者はどのくらいだったのか。多くの

意見をいただくことで地盤はならされていく。各学校で築いてきた伝統もあるので、そこを考えていくべき。

(学校教育課長) 谷地西部小 24 人、北谷地小 11 人、溝延小 7 人、西里小 16 人、谷地南部小 12 人、谷地中部小 15 人、全体で 85 人だった。

- ・ 統合ありきでないというのがいいと思っていたが、地区の方の話を聞くと、ある程度方針を出してほしいという意見があった。学校を残してほしいと思いつつ、将来を考えるとそうばかりも言っていられないと思う。

(委員長) きちんと方針を示してほしいという意見は、いくつかの地区で出ていた。しかし、果たして方針を示すことがいいのかということ悩むところ。方針を示すことで逆に強い反発を引き出すということもあるので、答申を出すまでは慎重につめていきたい。

- ・ 町の方針を示しているいろんな意見を出してもらった方がよい。各学校のそれぞれの良さがあると思う。仮に統合したとして、学校にそれぞれの良さをどう反映させることができるのかが課題。また、各地区のお祭りなどを統合した学校にそのまま取り入れることは難しいので、それも考える必要がある。
- ・ 懇談会記録を見ると多種多様な意見がある。いつまでも意見がまとまらないので、これからの子どもの数を予想して進めていかざるを得ないのではないかと。誰もが学校を残したいが、統合の方針で進めていかざるを得ないのではないかと。また、特色ある学校づくりとは言うが、普通に一人前の子どもを育てればいいのか。自分で解決する力というのはずっと昔から変わらず大切にしてきたところである。

いつまでも話がまとまらないと思うので、もう少し合理的に進めていってもいいと思う。

(委員長) 何度話し合っても話をまとめるのは難しいが、ある程度の選択肢をもって進めていかなければならない。

(委員長) 町内 4 つの学童クラブの方は、仮に 1 校にした場合の学童クラブに関するご意見をいただきたい。

- ・ 学校ごとに子どもの実態に違いがあると感じる。小さい規模の学校の子どもの、1 人でできる子が多い。逆に大きな規模の学校の子どものは、みんなで力を合わせて解決する力が強く、1 人で解決することには少し時間がかかる。学童は 1 つの施設で 35 ~ 40 人を 2 人で見るのが適正といわれているが、今それよりも人数が多い状況。たまにお休みがあつて適正の人数内になったときに、大変保育しやすいと感じるため、適正とは確かに決められている理由があり必要であると実感している。
- ・ 子どもたちが、安全な環境で安心して元気に暮らせるように接してきた。た

だ、学童に通う子どもは甘える子が多く、学校では自立を目指すようにしているのに、学童で手をかけすぎたかと反省している。今後の人数も増える見通しなので、保護者が安心して働けるようにしていきたい。また、保護者も話をしたがるので、親の居場所も必要かと思う。

子どもたちの安全を守るためにも、適正規模の考えは必要だと思う。

- ・ 学校で一生懸命頑張っている子どもは、学童でリラックスできる面もある。学校でなかなか自分を表現することが難しい子どもが、学童では生き生きと表現できる場合もある。どちらも子どもの顔なので、より生き生き過ごせることを大切にしたいところ。

(委員長) 幼児施設の方の意見をお聞きしたい。

- ・ 子どもの人数を考えると小学校を1校か2校にするのがいいと思うが、地域とのつながりも大事だと思う。仮に1校になったとして、子どもたちが遊びに行くときどうするのかと思う。もし遊びに行けない場合、仲間外れやいじめにつながらないか。それでも、学校の子どもの数は多い方がいいと思う。
- ・ 適正規模・適正配置について考えるのは本当に難しい。自分は適正規模の環境で育った。町の財政面を考えると、子どもにお金をかけるのはいいと思うものの、統合した方が負担は少ない。河北中は1校なので、それほど揉めることはない。中学校で一緒になっても、それぞれの地域の友達はみんないい人だった。地域に学校が必要という意見はわからなくもないが、子どもたちにとって一番いいのは何かと保護者に聞きたい。友達はたくさんいた方がいいと思う。ただ、なじめない子もいると思うので、その場合のケアを丁寧にすべきである。
- ・ 町の中心に1校にするのがいいと思うが、いきなり1校ではなく段階的統合がいい。人数が多いメリットデメリットはあると思うが、子どもたちにとって考えると、規模の大小だけでなく、ある程度の選択肢があったほうがいい。集団になじめない子、大人数で力を発揮できる子など、多様な子に合わせられる学校を目指すべき。
- ・ 個人的には1校がいいと思う。今年の卒園児が少なく、小学校で大人数に入ることがかわいそうと思っていた。ただ、卒園の時にいいクラスの雰囲気が終わったので、人数が少ないのも悪くないと思う。実際、子どもを通わせる保護者の立場になれば、本人も保護者も安心して通わせられる学校がいい。多くても少なくてもメリットデメリットがあるだろうし、どちらがいいのか迷っている。

(委員長) 全国に先駆けて、教育山形さんさんプランができたとき、当時の高橋知事は「教育は大切。交通インフラや建物を造ることも大切だが、そ

れよりも人づくりが大切。今造りたい橋の1本2本を我慢してでも教育につぎ込むべき。」という考えだった。それでスタートしたのがさんさんプラン。その後、国の45人という基準は多すぎるため、人数をどうするか議論され、「出羽三山」や「さんさんと輝く」の語呂合わせもあって33人と決まった。正直、この人数については検証ができていない。最初は上限だけだったが、1人や2人の下限も検証しようとなり21人という人数が決まった。ずっと続いているこの県の施策は、毎年3億から4億予算をかけている。

(委員長) 保護者の方々のご意見をお聞きしたい。

- ・ 適正規模について考えるとき、前向きな意見と後ろ向きな意見の両方がある。後ろ向きな意見としては、地域に小学校がないと、学校の近くの中心部に人が集まってしまい地区に人がいなくなるということ。前向きな意見としては、いろんな場面で切磋琢磨する状況が生まれるということ。

(委員長) 地域から学校がなくなると地域が廃れるという考えがあるが、学校を街の外れに建てたところで、30年以上たっても周囲に建物が集まらないところがある。果たして、地域と学校はどんな結びつきになっているのか。街中に学校を建てたら地域が必ず活性化すると一概には言い切れない。学校の設置場所と地域の活性化とは複雑な関係があるという例である。

- ・ 適正規模適正配置については、町として統合するとして進んでいくのであればそれで良い。ただ、統合となったときに各地区と学校とのつながりをどう補っていきのか、進めていきのか疑問。先生方が教育の中で子どもたちと関わっていくことについては先生方をお願いしているので何も言うことはない。先生方と保護者と地域の関わり合いを大切にしていきたい。保護者と先生方と地域と一緒に、学校が中心になって行事等を進めていくのが良さ。地区の良さをどう取り入れながら進めていきのか気がなるころ。子どもの人数は、多くても少なくてもよし悪しがあるため、統合しても子どもたちは大丈夫だと思う。
- ・ 地区の保護者は「うちの学校はなくならないだろう」と安心しているかもしれないが、自分は人数の減少率が大きい学校であることに愕然としている。将来の河北町を担う子どもたちの数は減っているということと捉えている。逆に、他の小学校区の方々がどれだけ地域を愛し、子どもたちが地域の方々の考えを理解しているかということも感じている。小規模校の良さも実際に感じられる場面がある。ただ、将来的には、段階的でも統合していくのがいいと思う。

昔と比べて、今は特別支援や通級での支援など、一人の先生だけでは負担が

大きい。複数の先生方で子どもたちを育てていく体制が必要だと思う。

1つの学校にまとまって、どの地区の子どもたちも同じ状況になることで、それぞれの地域の伝統やよさについて交流し、河北町の宝として共有してほしい。そして、将来、子どもたちがまた河北町に戻ってきたいと思えるようになればいいと思う。

(委員長)先生方が、専門性を高め、横のつながりを強めながら「チーム学校」で対応していくことが求められている。

- ・ 統合したときのメリットデメリットの整理が必要。このまま少人数化が進むと、人が少なすぎてできなくなるということが増えると思うのでよくない。例えば、学校行事がなくなったり規模が縮小したりすること。そのため、段階的な統合が必要だと思う。

もう一つ心配なのは、クラス替えがないと子どもたちの人間関係が固定化してしまうのではないかということ。社会に出た時のことを考えると、いろんな人のことを認め合える環境が必要。統合とすぐに決めなくても、合同で運動会などの交流の機会を増やしていくのが良いのでは。

(委員長)段階的統合については、懇談会で、何度も統合を経験する子どもが出るとかわいそうという反対意見も出た。今の子どもたちのことを考えていかなければならないと思う。

- ・ 保護者同士では、あまり少ない人数で学ばせるのは不憫、大人数に入ったときに心配という意見もある。自分の子どもを見ていると、学校以外の習い事で仲間外れにはなっていない。ただし、メリットデメリットを考えるとどれがいいか判断できない。財政面を考えると、民間の会社であれば経費削減は当然である。町は小規模校をたくさん抱えて大丈夫か。税金だから大丈夫とは町民に示しが見つからないのではないか。
- ・ 子どもが保育所の統合を経験していて、周囲の保護者は全く抵抗がない。検討委員会についても、すでに統合の話だろうと理解されている。統合して学ばせた方がいい。
- ・ 自分の子どもも保育所の統合を経験している。小中と進学してきて、子どもたちは何の抵抗もなかった。

統合にはメリットデメリットがあると思うが、一番驚いたのが、適正規模が決められていること。学級の人数が増えるなら手厚い、目が届くような教育をお願いしたい。

各家庭の子育てについても考えていくべき。子どもたちにはいろいろな体験をして育ってほしいと考えていたので、人数がいるといろいろな体験ができるのでいいのではないか。

(委員長) 教員を目指す人数の減少、教員の多忙、退職教員の多さ…教育現場は大変である。どんな学校づくりを目指しているか、学校長の意見をお聞きしたい。

- ・ 自分の学校の良さが最大限に生きるようなことを考えてやっていきたい。
- ・ 子どもも保護者も先生方もどうすればいいかは決められない。学校運営協議会、コミュニティースクールで、みんなで子どもたちにとって一番いい教育をしていく。
- ・ どの学校でも、学校は社会の縮図。子どもは子どもの中で育つ。子どもたちが解決するとき、なんでも親が先回りしてしまうと本当に子どもが育つのか疑問に思う。今年度は少し我慢することを目標にする。若い先生をつぶさないように育成していく。
- ・ 子どもたちが社会に出たときに自立して生きていけるようにみんなで支えていく。

社会人基礎力を養うように教職員は意識しているが、学童の力も大きいと感じている。

地域学校協働活動では、地域の方にたくさん授業に入ってもらい、学校を支えてもらってありがたい。

- ・ 地域の方から「統合になったら今の学校はどうなるのか。学校を学童にできないか。」と言われて、面白い考えだと思ったことがある。  
令和9年度は、谷地中部・谷地南部以外はすべて複式になる。職員数を見ると、担任が病気になったら教頭も校長も授業に出ないと学校が成り立たなくなるのが心配。複式学級を持ったことがある教員もどんどんやめていくので、なおさら心配である。
- ・ どんな学校規模でも、校長・教員は、いい学校を作ろうと努力してきた。令和6年度から複式がスタートする可能性があるため、複式の授業づくりの研修を進めようとしている。谷地西部小に研修に行く予定。経験がない若い先生が多く、複式の授業や教材研究・準備を不安に思っている。保護者はもっと不安なはず。「なぜもっと早く複式になると言ってくれなかったのか」と言われたこともある。教員の教材研究等の負担も増え、PTA 行事も負担になるため、ある程度の学校規模でないと、教員の負担は増えるばかりだろうと思う。
- ・ 各学校を見に行くと、それぞれの学校の良さがある。ただ、いつまでもまとめないわけにはいかない。平成29年度から、このまま少子化が進むと子どもたちにとってプラスよりもマイナスになることのほうが多くなるという危機感から検討が始まったはず。国が適正規模と決めていることにも理由があって、教員の人数構成による学び合いもある程度の人数がないと深まらないと思う。国の適正規模を一つの基準として話し合いを進めていかなければ

ならないと思う。

- (2) 小学校のあり方や将来の学校像等に対する本町の基本的な方針について
- 地区の方々が地区の伝統行事と学校のつながりが薄れないかと心配しているとある。自分の地区以外では、他の地区はどのような行事があり、学校とつながっているのか知りたい。仮に統合に進んだ時に、他の地区と交流できる機会になるのではないか。現在、どのくらい学校が文化継承を担っているのか。
  - 今の意見にも関わるが、まずは統合したときのメリットデメリットを具体的に整理して示してほしい。
- (委員長) 次回までに提示できるようにする。
- 各地区で伝統はあると思うが、言葉で表せないことがある。風土、子どもたちの普段の生活そのものがそうなのではないか。
  - 4つの学校から学童で預かっていると、それぞれの地区の特色があることは伝わってくる。
  - 統合を考えるのは、子どもの数の減少があるから。デメリットがあるから。今日の話でたくさん関連する意見が出た。複式になることがどういう影響が出るのか、もう少しはつきりまとめてもらえると分かりやすい。統合は、人数の減少と適正規模という関わりになると思う。

## 6 まとめ

(委員長) 今日たくさん貴重な意見が出たので、次回は「河北町にとってこういう学校を」と、ある程度まとめたいと思う。

## 7 今後のスケジュール (教育主幹)

## 8 その他

## 9 閉会